

※新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、募集時期及び選抜方法を変更する場合があります。変更が生じた際には大学ホームページにて情報を速やかにお知らせします。

### 【1】令和3年度琉球大学入学者選抜日程の概要

「以下の各入試区分の出願期間は、インターネット出願登録後、実際に出願書類を提出する期間です。Web 2 ページに示したインターネット出願登録期間中に登録を行ってください。」

#### ○一般選抜

日程	対象学部	大学入学 共通テスト	出願期間	個別学力検査等	合格発表	入学手続	追加合格
前期日程	全学部	(令和3年) 1月16日(土) 1月17日(日) 1月30日(土) 1月31日(日) ※特例追試験 2月13日(土) 2月14日(日)	1月25日(月) ∟ 2月5日(金)  ※特例追試験受験者 2月15日(月) ∟ 2月18日(木)	2月25日(木) 2月26日(金) ※①	3月7日(日)	3月14日(日) 3月15日(月)	3月28日(日) ∟ 3月31日(水) ※②
後期日程	全学部 (教育学部を除く)		3月12日(金) ※①	3月20日(土)	3月25日(木) 3月26日(金)		
日程	対象学部	個別学力検査等	受験手続	追試験	合格発表	入学手続	
追試験	全学部	前期日程 2月25日(木) 2月26日(金)  後期日程 3月12日(金)	前期日程 2月25日(木) 後期日程 3月12日(金) ※③いずれの日程も当該試験の終了時刻まで	3月22日(月)	3月26日(金)	3月27日(土)	

※①日程については、学部学科等によって異なります。一般選抜の詳細については、令和2年12月中旬発表の「学生募集要項（一般選抜）」を必ず確認してください。

※②追加合格者数によりますが、場合によっては欠員補充第2次募集を行うことがあります。

※③新型コロナウイルス感染症を含む疾病等で前期日程又は後期日程の個別学力検査等を受験できなかった受験者を対象に、追試験を行うことがあります。前期日程、後期日程のいずれも、当該試験の終了時刻までに受験手続（追試験願、診断書等の提出）を行う必要があります。詳細については、令和2年12月中旬発表の「学生募集要項（一般選抜）」を必ず確認してください。

#### ○特別選抜等

事項	対象学部・学科等	大学入学 共通テスト	出願期間	個別学力検査等	合格発表	入学手続
総合型選抜Ⅰ (共通テストを課さない)	教育学部	—	9月15日(火) ∟ 9月18日(金)	第1次選考 9月29日(火) 9月30日(水)  第2次選考 10月17日(土) ※①	第1次選考 10月7日(水)  第2次選考 11月2日(月)	11月16日(月)
	工学部	—		第1次選考 書類審査 第2次選考 10月17日(土)		

				(全コース) 10月24日(土) (知能情報コースのみ) ※①		
総合型選抜Ⅱ (共通テストを課す)	農学部	(令和3年) 1月16日(土) 1月17日(日) 1月30日(土) 1月31日(日) ※特例追試験 2月13日(土) 2月14日(日)		第1次試験 10月17日(土) ※①	(令和3年) 2月10日(月) ※②	(令和3年) 2月21日(日) } 22日(月)

※①総合型選抜Ⅰ・Ⅱの個別学力検査については、台風等による予備日を設定しています。予備日については、各学部の「学生募集要項（総合型選抜Ⅰ・Ⅱ）」を必ず確認してください。

※②大学入学共通テスト特例追試験受験者の合格発表は、2月20日（土）を予定しています。

事項	対象学部・学科等	大学入学 共通テスト	出願期間	個別学力 検査等	合格発表	入学手続
学校推薦型選抜Ⅰ (共通テストを課さない) (英語重視を含む)	国際地域創造学部・ 教育学部・ 農学部	—			12月15日(火)	
学校推薦型選抜Ⅱ (共通テストを課す)	人文社会学部・教育学部・ 理学部・医学部・工学部	(令和3年) 1月16日(土) 1月17日(日) 1月30日(土) 1月31日(日) ※特例追試験 2月13日(土) 2月14日(日)	11月2日(月) } 11月6日(金)	12月2日(水)	(令和3年) 2月10日(月) ※①	(令和3年) 2月21日(日) } 2月22日(月)
社会人特別選抜	国際地域創造学部	—			12月15日(火)	
	工学部	—	(令和3年) 1月18日(月) } 1月22日(金)	(令和3年) 2月26日(金)	(令和3年) 3月7日(日)	(令和3年) 3月14日(日) } 3月15日(月)
帰国生徒特別選抜	人文社会学部・理学部・ 医学部・農学部	—	11月2日(月) } 11月6日(金)	12月2日(水)	12月15日(火)	(令和3年) 2月21日(日) } 2月22日(月)
	国際地域創造学部 教育学部	—	(令和3年) 1月18日(月) } 1月22日(金)	(令和3年) 2月25日(木) 2月26日(金) (26日は教育学部のみ)	(令和3年) 3月7日(日)	(令和3年) 3月14日(日) } 3月15日(月)
	理学部物質地球科学科 (地学系)	—		(令和3年) 3月12日(金)	(令和3年) 3月20日(土)	(令和3年) 3月25日(木) } 3月26日(金)
私費外国人留学生 特別選抜	全学部	—	(令和3年) 1月18日(月) } 1月22日(金)	(令和3年) 2月25日(木) 2月26日(金)	(令和3年) 3月7日(日)	(令和3年) 3月14日(日) } 3月15日(月)

※①大学入学共通テスト特例追試験受験者の合格発表は、2月20日（土）を予定しています。

※②特別選抜の詳細については、下記学生募集要項（本学ホームページ掲載）を必ず確認してください。

◇「学生募集要項（総合型選抜Ⅰ・Ⅱ）」 令和2年7月発表

◇上記以外の学生募集要項 令和2年9月発表

# 令和3(2021)年度琉球大学入学者選抜方法等の主な変更点

## 変更の趣旨

本学入学者選抜において、アドミッション・ポリシーに基づき、「学力の3要素」（①知識・技能，②思考力・判断力・表現力，③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をより多面的・総合的に評価するものに変更します。

変更事項	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	
入試区分等の名称	一般入試	一般選抜	
	推薦入試Ⅰ・Ⅱ	学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ	
	AO入試	総合型選抜Ⅰ・Ⅱ	
	社会人特別入試	社会人特別選抜	
	帰国子女特別入試	帰国生徒特別選抜	
	私費外国人留学生入試	私費外国人留学生特別選抜	
既存の入学者選抜の廃止及び新たな入学者選抜の実施	教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース学校教育専攻 (一般入試後期日程) 教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース教科教育専攻 (一般入試後期日程)	廃止	
	教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース学校教育専攻	総合型選抜を新規実施	
	農学部亜熱帯地域農学科 亜熱帯農林環境科学科 地域農業工学科 亜熱帯生物資源科学科	推薦入試Ⅰ(英語重視)を 廃止	
	農学部亜熱帯生物資源科学科 健康栄養科学コース	推薦入試Ⅰを廃止	
	農学部亜熱帯地域農学科 亜熱帯農林環境科学科 地域農業工学科 亜熱帯生物資源科学科 (健康栄養科学コースを含む)	総合型選抜を新規実施	
	入学者選抜の募集人員	【2】募集人員(5ページ)参照	
	新型コロナウイルス感染症対応について	「新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、選抜方法や試験日時等を変更する場合があります。変更が生じた場合は大学ホームページにて情報を速やかにお知らせします。」と記載。	
受験票の取得について	受験生は、 <u>受験番号確定お知らせメールを受信後、各自でインターネット出願専用サイトから受験票を印刷する。</u>	受験生は、 <u>指定する期日にインターネット出願専用サイトから各自で受験票を印刷する。</u>	

変更事項	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度
大学入学共通テストにおける英語の配点比率	筆記・リスニング 全学部 250 点：50 点（4：1）	リーディング・リスニング 原則として全学部 100 点：100 点（1：1） ※教育学部学校教育教員養成課程 中学校教育コース教科教育専攻社会科教育専修においては 150 点：50 点（3：1）
主体性等評価について	「一般選抜」を含むすべての入学者選抜区分において、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、小論文、面接等を入学者選抜区分の特徴に応じて活用する。	
人文社会学部人間社会学科プログラムの配属について	推薦入試Ⅱ プログラム単位で募集しますが、 <u>1 年次後学期を修了した時点で、本人の希望と 1 年次の成績等に基づき、2 年次前学期から各プログラムに配属されます。</u>	学校推薦型選抜Ⅱ <u>2 年次前学期から合格したプログラムに配属</u> されます。
教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース学校教育専攻の共通テスト利用教科・科目	推薦入試Ⅱ 5 教科 <u>6 科目</u> 又は 5 教科 <u>7 科目</u>	学校推薦型選抜Ⅱ 5 教科 <u>5 科目</u> 又は 5 教科 <u>6 科目</u>
教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース教科教育専攻 数学教育専修の選抜方法等		学校推薦型選抜Ⅱ <u>共通テストの合計点が 60% に満たない場合は不合格</u> とします。
教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース教科教育専攻 保健体育専修の選抜方法等	推薦入試Ⅱ <u>センター試験の合計点が 55% に満たない場合は不合格</u>	学校推薦型選抜Ⅱ <u>共通テストの合計点が 45% に満たない場合は不合格</u>
教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース、中学校教育 コース教科教育専攻生活科学教育 専修の選抜方法等		一般選抜や学校推薦型選抜Ⅱの個別学力検査等において、 <u>小論文を新規実施</u>
理学部海洋自然科学科化学系の 共通テスト利用教科・科目	推薦入試Ⅱ <u>5 教科 7 科目</u> 又は 5 教科 <u>8 科目</u>	学校推薦型選抜Ⅱ <u>3 教科 5 科目</u> 又は 3 教科 <u>6 科目</u>
医学部医学科の募集人員	推薦入試Ⅱ 地域枠 14 名 離島・北部枠 3 名	学校推薦型選抜Ⅱ 地域枠 14 名 <u>程度</u> 離島・北部枠 3 名 <u>程度</u>

【2】募集人員

学部	学科・課程・(選抜方式)等		入学定員(名)	募集人員(名)										
				一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜		社会人	帰国生徒	私費外国人		
				分離分割方式		大学入学共通テストを課さない	大学入学共通テストを課す	大学入学共通テストを課さない	大学入学共通テストを課す					
				前期日程	後期日程									
人文社会学部	国際法政学科		80	54	14				12		若干名	若干名		
	人間社会学科	哲学・教育学プログラム	80	41	18				5		若干名	若干名		
		心理学プログラム							8					
		社会学プログラム							8					
琉球アジア文化学科		40	25	9				6		若干名	若干名			
計			200	120	41				39					
国際地域創造学部	昼間主コース	国際地域創造学科	(国際的思考系)	265	60	15						若干名	若干名	
			(論理的思考系)	90	20			50						
			(数学的思考系)	30										
	夜間主コース	国際地域創造学科	(国際的思考系)	80	20	5				13	10			
		(論理的思考系)		24	8									
計			345	224	48				63	10				
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	学校教育専攻	140	35(30)	0(8)	5(0)			10(12)				
			教科教育専攻		国語教育専修						2			
					社会科教育専修						2			
					数学教育専修						2			
					理科教育専修						2			
					音楽教育専修						2			
					美術教育専修						2			
					保健体育専修						2			
					技術教育専修						2			
					生活科学教育専修						2			
	英語教育専修							2						
	中学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修		4									
			社会科教育専修		3									
			数学教育専修		5									
			理科教育専修		5									
			音楽教育専修		3									
			美術教育専修		3								若干名	
			保健体育専修		3									
			技術教育専修		2					1			若干名	
			生活科学教育専修		3									
英語教育専修				2					1 英語重視					
特別支援教育コース	特別支援教育専攻	特別支援教育専修		8					2					
計			140	101(91)	0(13)	5(0)		2	32(34)					
理学部	数理学科		40	30	10							若干名		
	物質地球科学科	物理系	65	28	7				5		若干名	若干名		
		地学系	19	3(4)					3(2)		若干名	若干名		
	海洋自然科学科	化学系	95	27(32)	10				10(5)		若干名	若干名		
生物系		37	10					1		若干名	若干名			
計			200	141(146)	40(41)				19(13)					
医学部	医学科		112	70	25				17					
	保健学科		60	41	10				9		若干名	若干名		
	計			172	111	35			26					
工学部	工学科	機械工学コース	350	206	40				6		若干名	若干名		
		エネルギー環境工学コース							10		若干名	若干名		
		電気システム工学コース							2		若干名	若干名		
		電子情報通信コース							4		若干名	若干名		
		社会基盤デザインコース							5		若干名	若干名		
		建築学コース							2		若干名	若干名		
		知能情報コース							7		若干名	若干名		
計			350	206	40	36		68						
農学部	亜熱帯地域農学科		35	22	5		3(0)	5(7)	0(2) (英語重視)		若干名	若干名		
	亜熱帯農林環境科学科		35	22(21)	5(7)		3(0)	5(7)			若干名	若干名		
	地域農業工学科		25	16(17)	2(3)		2(0)	5			若干名	若干名		
	亜熱帯生物資源科学科		45	23(22)	4(6)		2(0)	6			若干名	若干名		
	健康栄養科学コース			8			2(0)	0(2)						
計			140	91(90)	16(21)		12(0)	21(29)						
合計			1,547	994(988)	220(239)	41(36)	12(0)	86(94)	184(168)	10				

※( )内の数字は、前年度の募集人員を表します。

## 採択された日本医療研究開発機構(AMED)中央 IRB 促進事業 「臨床研究プロフェッショナル育成プログラムの作成」について

琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学・臨床研究教育管理理学講座

琉球大学病院 臨床研究教育管理センター

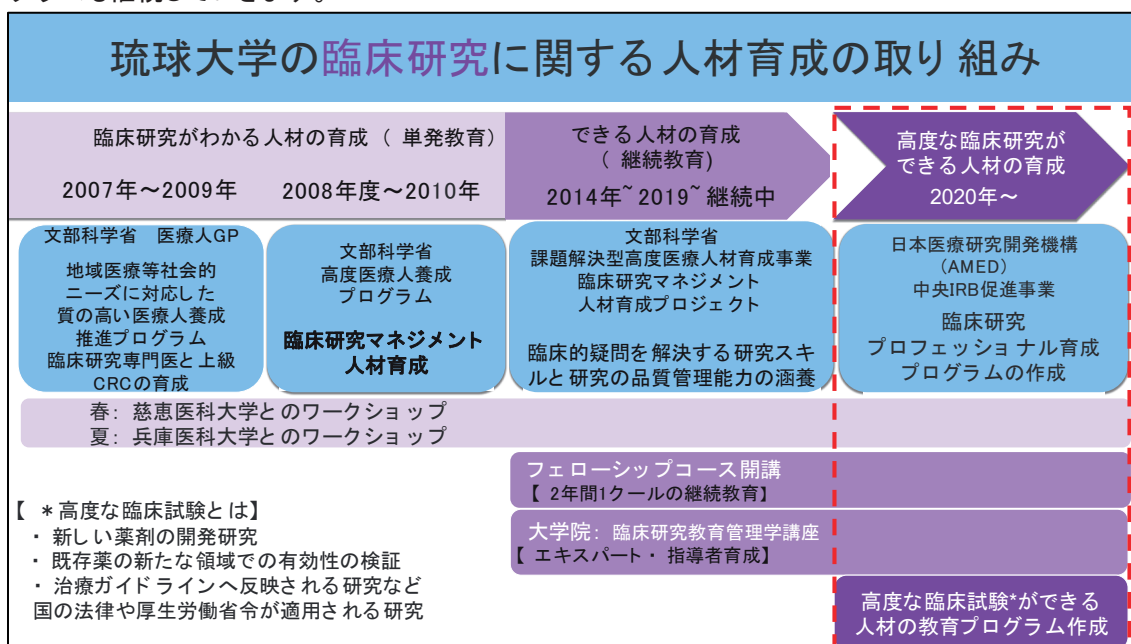
植田真一郎

### 1. 臨床研究とは何？

個々の患者さんの治療の決定をするには、根拠を持って行うことが求められ (EBM)、その根拠の形成に大きく関わるのが臨床研究です。医療には未解決の問題はたくさんあり、解決するには実験室での基礎的な研究だけではなく、医師をはじめとする医療従事者によるこの「臨床研究」が必須です。診療における疑問を研究の形にしてそれを解決するスキルが必要とされます。社会問題としても注目された高血圧症治療薬の研究不正問題で明らかになったことの一つは、医師は臨床医としてのトレーニングは受けてきたが、臨床研究のための教育は十分ではなかったことでした。

### 2. これまでの琉球大学の取り組み

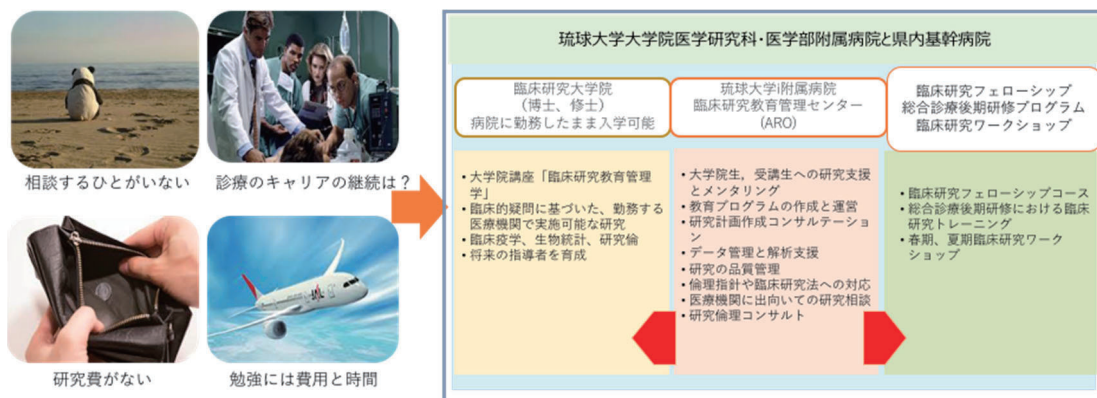
2007 年の文部科学省医療人 GP をスタートに、公的支援を受けながら臨床研究の教育基盤の強化に力を入れてきました。各事業は数年で終了しますが、終了後も教育活動を継続し、育成する人材のレベルアップに努めてきました(図 1)。今回の事業はこれまでの各事業で蓄積した経験とノウハウを活かし、さらに今求められている「高度な臨床研究を行える人材」を育成することを目的としています。また従来通り、臨床研究の初学者から様々なレベルの研究者を対象としたプログラムも継続していきます。



### 3.「臨床研究プロフェッショナル」の必要性

もともと沖縄県は県立中部病院を中心とした北米型のレジデント制度がいち早く設置され、多くの臨床医を育成してきました。しかし彼ら、彼女らが診療のキャリアを継続したまま、臨床的な疑問を解決するような臨床研究を実施するにはいくつかの課題がありました(図2)。これまで琉球大学では2007年度文部科学省医療人GPや2014年度からの文部科学省課題解決型高度医療人養成事業により、診療での疑問を研究に結びつけるようなワークショップや臨床研究に特化した大学院の開講などのトレーニングプログラムを提供してきました(図2)。これらは「臨床研究ができる医師、医療従事者」という点では一定の成果をあげましたが、今後日本の臨床研究の推進のためには臨床研究法のもとに実施される特定臨床研究や医師主導治験(医師により行われる新しい薬剤の承認を目的とした研究、例としてCOVID-19でのイベルメクチンの治験は医師主導治験)を独立したPIとして実施できる若手研究者、いわば臨床研究のプロフェッショナルを育成する必要があります。本研究ではこれまでの成果を踏まえて、高度な臨床研究を実施できる臨床研究者、いわば臨床研究のプロフェッショナルを育成します。

図2.臨床医からの要望に応えた昨年度までの先行事業における臨床研究人材育成に関する取り組み



### 4.プログラムの内容 社会的な必要性

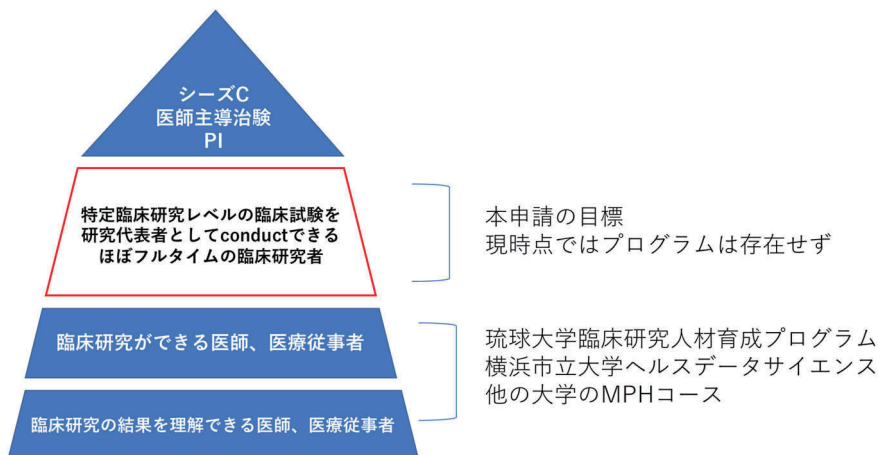
もともと本邦には生命科学研究で得られた結果をシーズとして新しい薬剤や医療機器に活かすための臨床研究中核病院が、旧帝大病院を中心に存在します。

これらの病院は高度は橋渡し研究、臨床試験を行うわけですが、いわばプロ野球の一軍に相当する研究拠点と言えます。しかし臨床研究者としての医師の育成はできておらず、まさにプロ野球の2軍のように基本的なスキルについてトレーニングを行い、比較的初歩的な臨床試験を研究代表者(PI)として実施できる人材を育成する必要があります。

そこで琉球大学を中心に横浜市立大学、東京慈恵会医科大学、東京医科歯科大学などの非中核ながら特徴ある臨床研究者育成に携わってきた国公立大学が連携し、将来新しい薬剤などの研究をリードできる医師を育成するプログラムを作成することになりました。

(図3)

図3 本研究で育成しようとする人材

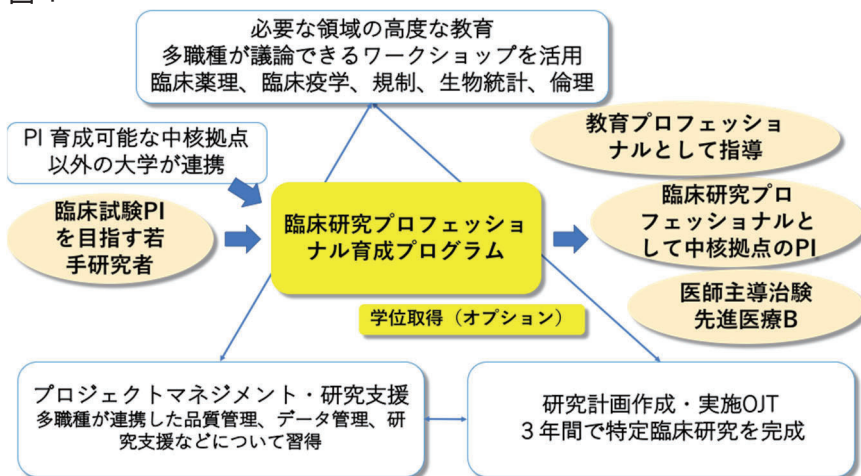


研究の内容

琉球大学大学院医学研究科臨床薬理学講座、琉球大学病院臨床研究教育管理センターを中心に横浜市立大学データサイエンス専攻、東京医科歯科大学研究倫理センター、東京慈恵会医科大学が連携して、必要な領域の研究者が参加し、臨床試験の研究代表者となれる若手臨床研究者を育成する、いわばプロ野球の2軍に相当する研究者育成プログラムを作成します。琉球大学がこれまで実施してきた臨床研究者育成プログラムを目的に沿って発展させ、臨床薬理、臨床疫学、生物統計、規制、研究倫理の専門家による高度な教育、研究代表者として特定臨床研究の研究計画作成、実施による OJT、多職種連携による研究支援、品質管理の3本柱からなるプログラムになります。実現性の観点から強い臨床的疑問から発した研究を重視します。

プログラムの概要(図4)

図4



実施体制



研究代表者

琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学

琉球大学病院 臨床研究教育管理センター 植田真一郎

研究分担者

横浜市立大学 ヘルスデータサイエンス専攻 山中竹春

東京医科歯科大学 研究倫理センター 吉田雅幸

東京慈恵会医科大学 臨床薬理学 志賀剛

琉球大学病院 臨床研究教育管理センター 池原由美

## (添付資料 1)プログラムの詳細

### A. 育成対象者

将来医師主導治験、特定臨床研究などの臨床試験を PI として実施することを希望する医師。

### B. プログラム実施期間

3年間

### C. 達成すべきアウトカム

- ・ アカデミアで医師主導治験、先進医療 B を含む特定臨床研究を PI として実施できる。
  - － 観察研究で何が問題なのかを明確にできる。
  - － 重要な臨床的疑問を研究仮説にできる
  - － 患者、変数、介入、アウトカムの適切な定義、設定ができる
  - － 目的に応じた適切な研究デザインの選択ができる。
  - － 規制、指針、法規の理解し遵守した研究計画を作成できる。
  - － 適切な研究実施、支援、管理体制を構築できる。
  - － 研究倫理の観点から適切な研究計画書を作成できる。
  - － 品質管理について理解し、対応できる。
  - － 安全性情報の管理ができる
- ・ プログラム終了後は臨床研究の教育に携わることができる。

### D. 指導者

- ・ アカデミアで自身も臨床研究を行っている以下の研究者、研究支援者
  - － 臨床薬理学の研究者(琉球大学、東京慈恵会医科大学)
  - － 臨床試験を研究計画作成から PI として実施した経験を有する研究者(琉球大学、横浜市立大学、東京慈恵会医科大学)
  - － コホート研究、プライマリケア研究の経験を有する臨床疫学の研究者(琉球大学、横浜市立大学)
  - － 医師主導治験、特定臨床研究の経験を有する生物統計家(横浜市立大学)
  - － 医師主導治験、特定臨床研究の経験を有する臨床試験プロジェクトマネジャー、上級臨床研究コーディネーター、データマネジャー(琉球大学)
  - － 研究倫理の専門家(東京医科歯科大学)
- ・ AMED 生物統計家育成プログラム卒業生のインターンシップとして活用。

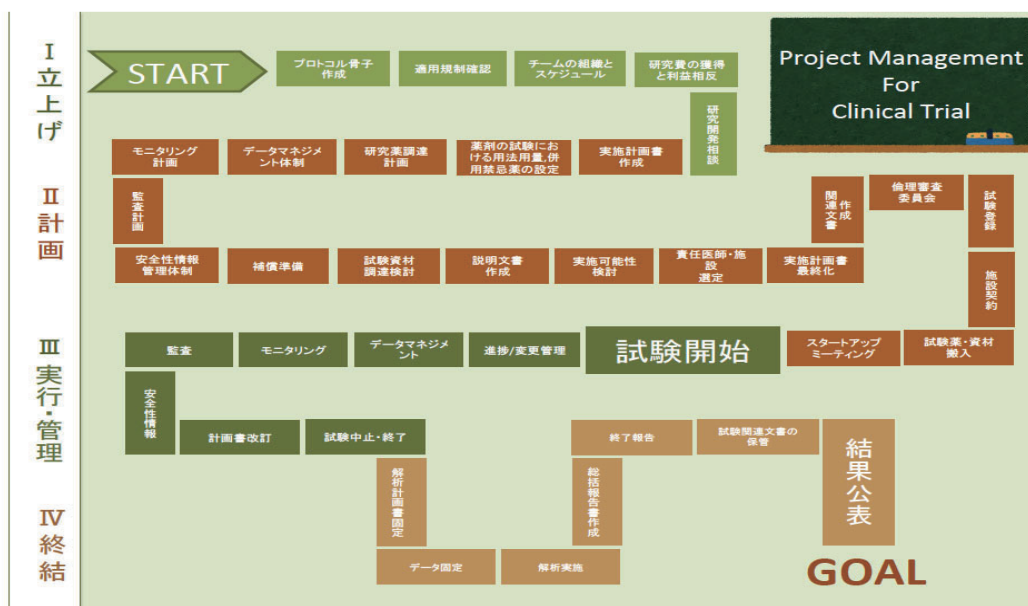
### E. プログラムの構成

既存のワークショップ、フェローシップは 2020 年度も開催し、アドバンスドコースを試験的に運用する。

- ・ PI 育成を目的として改訂された講義、アドバンスドワークショップを OJT と並行して受講する。
  - － 臨床薬理学、臨床疫学、生物統計学、研究倫理、規制
  - － 模擬データや実際のコホート研究の解析
- ・ OJT として臨床的疑問に基づいた特定臨床研究の研究計画を作成し、実施する。(図2)

- 先行研究の系統的レビュー、後ろ向きコホート研究、データベース解析による臨床的疑問のブラッシュアップ。
- 研究倫理の専門家を含めた指導者と議論し研究計画書の各項目を設定を行う。
- 分担研究施設とチームを構築
- 担当する生物統計家とともに解析計画書を作成。
- 認定臨床研究審査委員会に申請を行う。
- ・ 多職種研究支援チームを組織しプロジェクトマネジメント、研究支援を学ぶ。臨床研究の「双六」で「上がり」の達成で本プログラムは終了となる。(図 1)
  - 研究事務局業務の理解
  - 各種手順書の作成。
  - データ管理
  - 品質管理と監査対応

図 1 臨床研究のプロジェクトマネジメント



令和 2 年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 「女性の健康の包括的支援実用化研究事業—Wise」採択の報告

琉球大学大学院医学研究科システム生理学講座 教授 宮里 実

研究開発代表者 システム生理学講座 宮里実

研究開発分担者 芦刈 明日香 助教 (腎泌尿器外科)、植田 真一郎 教授 (臨床薬理)、前田 士郎 教授 (先進ゲノム検査医学)、西田 康太郎 教授 (整形外科)、米本 孝二 教授 (生物統計学)、銘苅 桂子 教授 (周産母子センター)

令和 2 年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 「女性の健康の包括的支援実用化研究事業—Wise」に、琉球大学からの申請「骨盤臓器脱及び下部尿路疾患の網羅的情報に基づいた選別化と個別化治療戦略」が採択されたことをご報告致します。Wise は女性特有の疾病や男女共通課題で特に女性の健康に資する研究を支援するプログラムで、骨盤臓器脱という疾患が AMED 事業で取り上げられたのは今回が初めてになります。研究代表者の 27 年間に及ぶ臨床医としての研究実績や、琉球大学病院における骨盤臓器脱への取り組みが評価されました。

## 1) 骨盤臓器脱とは

骨盤臓器脱は、膀胱、子宮、直腸といった女性の骨盤内臓器が膣から脱出する疾患で、妊娠、出産という女性特有のライフイベントに起因します。発症すると、歩行難、排尿困難、尿失禁、尿路感染症を引き起こし、著しく生活の質が低下します。二足歩行するヒトに特徴的な疾患で、中高年女性の 10~20%、出産経験のある女性では 40%に発症するとも言われます。「医学の父」ヒポクラテス (c. 460~c. 370 BC) が治療法を紹介するなど古くから知られる病気ですが、症状や起こる場所からタブー視されてきた疾患でもあり、女性の社会進出の増加に伴い問題が顕在化したと言えます。後天的要因が主ですが、未経産婦や家族発症も報告されており、遺伝要因も示唆されています。女性の合計特殊出生率が日本一を誇る沖縄県においても潜在患者は多いことが予想されます。軽症例は早期の骨盤底筋訓練で改善が望めますが、認識不足や羞恥心から医療機関の受診が遅れ、発症時にはすでに重症化していることが多いのも特徴です。そうになると、手術以外に有効な手立てはありません。したがって、骨盤臓器脱の治療には予防が最善の策といえます。本研究は、その点に主眼を置いたものです。

## 2) 本研究の内容

骨盤臓器脱の疾患特性から、いかに発症初期、あるいは発症高リスク群を的確に選別して予防、早期に保存的療法を行うかが大切です。3年間の研究で、沖縄県中高年女性の骨盤臓器脱患者のゲノム解析及びレジストリ（患者の疾患、治療、その経過などを管理するデータベース）を基に発症予測モデルを構築し、新たな予防戦略と先端治療の開発を目指します。

研究開発実施期間

令和2年4月1日から令和5年3月31日

本研究は3つの柱を有しています。

### ① 骨盤臓器脱に関するゲノム解析研究

沖縄地方は日本の他の地域と比較して、遺伝学的背景の違いがある事が報告されています。沖縄県民を対象とした骨盤臓器脱に関するゲノムワイド関連解析（GWAS）および骨盤臓器脱予測のための genome-wide polygenic risk score（PRS）構築を行い、日本の他の地域の被験者で検証を行います。

### ② レジストリに基づいた骨盤臓器脱危険因子同定と新規予防プログラム導入

沖縄県民40歳以上の骨盤臓器脱患者及び健常女性の身体情報（年齢、基礎疾患、BMI、出産歴、家族歴、職業など）、ゲノム情報を含んだ疾患レジストリを構築し、発症高リスク群を同定します。高リスク群には、専門のトレーナーの指導の下に効果的な骨盤底筋訓練の導入、排尿、性器症状の改善を短期アウトカムに、骨盤臓器脱発症の有無を長期アウトカムとして追跡します。

### ③ 骨盤臓器脱関連下部尿路症状に対する新規治療開発

レジストリに基づいた難治性尿失禁や過活動膀胱の下部尿路症状には、排尿障害治療薬の適応拡大、先端治療を実現します。

本研究は、研究開発代表者が27年間の臨床医として培った研究実績を踏まえ、泌尿器科学、ゲノム医科学、臨床薬理学、産婦人科学、整形外科、生物統計学の専門家が垣根を越えて連携する画期的研究です。採択にあたっては島嶼県である沖縄の特徴を生かした斬新な橋渡し研究が評価されたものと考えられます。本研究により琉球大学から質の高い臨床研究を展開し、その成果を全国に適用することで、沖縄県民の医療・福祉向上はもとより、世界の女性がより良い生涯を送る健康寿命の延伸につながることを期待されます。

Wiseについて

女性がより良い生涯を送るために必要な健康を提供できるような社会づくりを視野に入れ、人生の各段階に応じて心身の状況が大きく変化する女性のライフステージごとの健康や疾患について、病態の解明と予防、治療に向けた研究開発と実用化を推進する事業です。



参考 AMED 事業紹介 Wise

<https://www.amed.go.jp/program/list/14/03/006.html>

令和2年7月8日

## 嘴を失った新種のコモチサヨリを発見

～下顎の突起が完全に退化したコモチサヨリ科魚類の新種を記載～

資料非公開